

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和7年度 技術情報第26号(サツマイモのムツスジアシナガゾウムシに対する防除対策)について (送付)

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ (<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>) にも掲載しています。



令和7年度 技術情報第26号

令和7年産のサツマイモ栽培において、大隅地域の一部のほ場でムツスジアシナガゾウムシによる被害の進展が認められました。本年産対策として、サツマイモ栽培でのムツスジアシナガゾウムシの生態と防除の考え方を示しましたので、下記4を参考に適期防除に努めてください。

1 対象病害虫 ムツスジアシナガゾウムシ

2 対象作物 サツマイモ

3 発生状況及び防除時期

- (1) ムツスジアシナガゾウムシは、サツマイモでは令和7年までに鹿屋市、志布志市、曾於市および大崎町で認められている。
- (2) サツマイモ栽培では、苗の植付け後に越冬成虫がほ場内に侵入し、茎葉を食害しながら茎(蔓)に産卵する。なお、4月上旬に植付けしたほ場では、第一世代成虫が7月頃から、第二世代成虫が9月頃から発生すると考えられる。
- (3) 食害は苗植付け後の生育初期に加えて、7月から9月にかけて増加することから、食害と各世代の成虫の発生(侵入)時期が一致する。以上のことから、成虫の発生時期が防除適期と考えられる。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 本虫の防除時期は4月から5月(越冬成虫)、7月から8月(第一世代成虫)、9月から10月(第二世代成虫)と考えられる。なお、生育初期にはヨツモンカメノコハムシやヒルガオハモグリガなど、生育中期以降はナカジロシタバ、ヒルガオハモグリガなどのチョウ目害虫の防除を考慮した農薬を選定すると効率的である(図1)。
- (2) 防除が不十分な場合は甚だしい食害(図2)を受けることがあるため、防除後も被害の進展が認められる場合は、各世代の追加防除を行う。
- (3) 現在、本種に対する登録農薬はないが、植物防疫法第29条第1項により4剤(表1)が使用できる(令和6年度技術情報第8号、令和6年5月9日付け 参照)。
- (4) なお、第二世代成虫は越冬して翌年の植付け後の被害を招くことから、被害が多いほ場では、第二世代成虫が発生する前に収穫して密度を低下させるなど、耕種的な防除も取り入れ、総合的に防除する(図1)。



5 参考

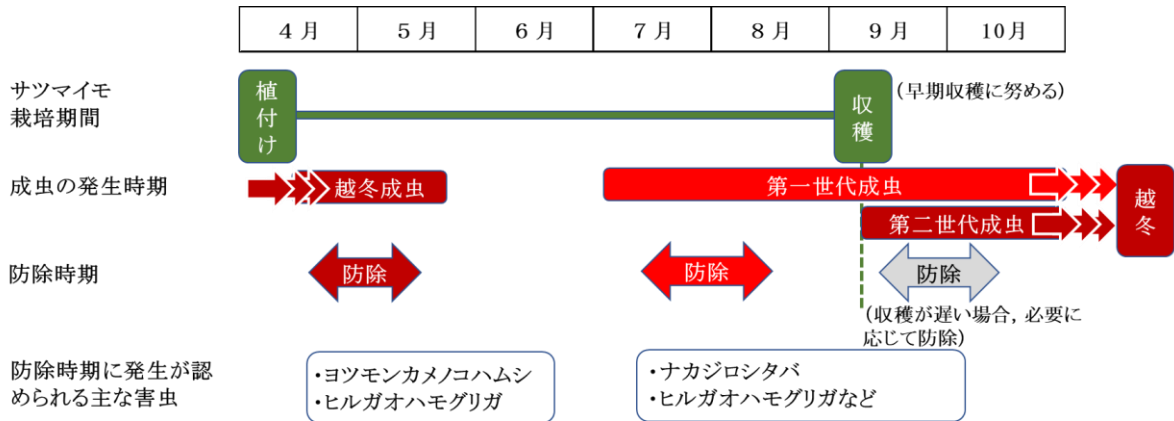


図1 サツマイモ栽培でのムツスジアシナガゾウムシの生態と防除の考え方

注1) サツマイモ栽培は4月上旬植付けを例として作図

注2) 農薬はムツスジアシナガゾウムシ以外の害虫の発生状況も考慮して選定する。

表1 サツマイモ栽培でのムツスジアシナガゾウムシに使用可能な農薬
(植物防疫法第29条第1項の適用)

商品名	使用時期	使用回数	希釈倍数	適用病虫害								
				アブラムシ類	タバココナジラミ	コナジラミ類	ヨツモンカメノコハムシ	ハダニ類	ナカジロシタバ	シロイチモジヨトウ	ヒルガオハモグリガ	ハスモンヨトウ
グレーシア乳剤	収穫7日前まで	2回以内	2000～3000			○		○	○			○
コテツフロアブル	収穫前日まで	2回以内	2000					○				○
			2000～4000				○			○		
スミチオン乳剤	収穫7日前まで	5回以内	1000	○			○					○
ベネビアOD	収穫7日前まで	3回以内	4000		○		○		○		○	○

注1) 登録内容：令和8年1月5日現在

注2) 室内試験でサツマイモ茎、葉柄を用いた食餌浸漬法により処理96時間後まで調査し、効果の高かった農薬を適用。

なお、コテツフロアブル、グレーシア乳剤は2,000倍のみの試験のため、それ以外の希釈倍数での殺虫効果は未確認。



図2 ムツスジアシナガゾウムシ成虫によるサツマイモ茎葉の甚だしい食害

注1) 撮影日 生育初期：令和6年4月30日、生育後期：令和7年10月11日